

赤十字だより



編集・発行

+ 日本赤十字社 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9

TEL : 058-272-3561 <http://www.gifu.jrc.or.jp/gifu/>

赤十字の活動は、皆様からの社資で支えられています。

東日本大震災発生

東日本大震災でお亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を表しますとともに、被災された地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

日本赤十字社 岐阜県支部
支部長 古田 肇



①陸前高田市立第1中学校救護所での活動の様子
②被災した陸前高田市内の様子
③石巻市内に打ち上げられた漁船

平成23年3月11日（金）午後2時46分、三陸沖を震源とした大規模な地震が発生し、東北、関東の広い地域に未曾有の被害をもたらしました。岐阜県支部では、直ちに高山、岐阜の両赤十字病院救護班を被災地のひとつである岩手県盛岡市に向け出動させました。

CONTENTS

- 東日本大震災発生—
- 被災地へ救護班を派遣！現在も継続した救護活動を展開中……2
- 災害医療派遣医療チーム（DMAT）養成研修……2
- 平成22年度第2回日本赤十字社岐阜県支部評議員会……3
- 赤十字奉仕団リーダーシップ研修会……3
- 岐阜県赤十字有功会から青少年赤十字加盟校への絵本の贈呈……3

- 年齢条件などの採血基準が一部変更になりました……3
- 毎年5月は赤十字運動月間です……4
- 平成23年度赤十字講習会のお知らせ
（4月～6月開催分）……4
- 岐阜県支部 お知らせ……4

被災地へ救護班を派遣！現在も継続した救護活動を展開中

出動した救護班は、現地の情報が全くない状況で、医療セットや薬品等必要と思われる資材を車両に積み込み、雪の降りしきる中、日本海側の高速道路と一般道を使用し秋田県にかほ市を經由し、出発から16時間が経過した3月12日（土）午前10時半に現地災害対策本部のある盛岡赤十字病院に到着しました。休む間もなく災害対策本部の指示により岩手県消防学校へ移動し、移動式仮設診療所（通称dERU）の運用を担当、被災地からヘリコプターで搬送されてくる被災者の医療救護活動を実施しました。

翌13日（日）からは、被害の大きかった陸前高田市内の陸前高田市立第一中学校に開設された避難所を目指しました。避難所に近づくにつれ、救護班員の前に想像を絶する光景が飛び込んできました。避難所まで数キロ手前の川岸には、津波によって倒壊した家屋などがれきがあちこちに打ち上げられている状況で、救護班の車両は、がれきを取り除かれた道路を探しながら通り、避難所となっている第一中学校に到着しました。避難所では、校内の教室を借りて設置された救護所ですでに活動を開始していた秋田県支部救護班や、福井県支部救護班と共に医療救護にあたりました。「いつもの薬が津波で流されてしまった、なんとか貰えないか」と訴える被災者が殺到し、一時は、救護所前に長蛇の列が出来るほどでしたが、救護所の薬品には限りがあり被災者の要望に応えるには大変難しい状況だったため、自衛隊の協力を得て、避難所から車で20分程の所にある県立大船渡病院へ多数の被災者を搬送しました。

また、地元の保健師と協働し地域の公民館など約40ヶ所に点在して避難している被災者への巡回診療も実施しました。点在する避難所には高齢の被災者が多く、こちらでも薬の処方を訴える被災者が多数みえました。どの避難所もライフラインの寸断により電気が通っていないため、夜間には懐中電灯で避難者の血圧を測定するなど、非常に厳しい状況での救護活動が続きました。

出動から5日目の3月15日（火）、後続の福井県支部救護班に活動を引き継ぎ、被災者の健康を案じつつ避難所を後にしました。（岐阜県支部では、3月中この避難所に継続的に救護班を派遣しました。）

4月以降は、被害が広範囲に及ぶ今回の大震災の救護活動を継続的に円滑に行うため各救護班の活動エリアの調整を行い、その結果、岐阜県支部救護班は、現在も宮城県石巻市での活動を行っています。

日本赤十字社では、一日も早い復興と被災された皆様の支援のため、救護班や被災者のこころのケアのための要員派遣等を引き続き行ってまいります。



岐阜赤十字救護班出発式の様子

救護班等派遣状況

日本赤十字社岐阜県支部では、東日本大震災救護活動に以下のとおり救護班を派遣しました。

活動日	活動場所	活動内容	救護班	派遣人数
3月11日（金） ～3月31日（木）	岩手県消防学校 陸前高田市立第一中学校 宮城県災害対策本部要員	救護所 巡回診療 院内支援等	岐阜班計7班	48名
			高山班計7班	48名
			岐阜県支部	9名
4月1日（金）～5月1日（日）	石巻赤十字病院 他市内		血液センター	2名
平成23年2月16日（水）～19日（土）にかけ、兵庫県災害医療センターにおいて			計14班	延107名

（5月1日以降も石巻市内へ救護班の派遣を行います。）

災害医療派遣医療チーム（DMAT）養成研修

平成23年DMAT養成研修が行われ、高山赤十字病院からは医師2名、看護師2名、臨床工学技士1名の計5名で参加しました。

研修では、災害発生直後から活動できるような専門的な訓練が行われました。日頃から取り組んでいる救護活動よりも厳しい状況での活動が想定され、現場での「瓦礫の下での医療」や、輸送機を使用した「広域搬送」などの実践を行いました。

当院では今回の研修で12名のDMAT隊員が在籍する事となり、東海地震などへの対応を一段と強化する事が出来ました。今後も災害救護の様々な役割に対し、積極的に取り組んでいきます。



訓練をする隊員

平成22年度第2回日本赤十字社岐阜県支部評議員会

平成23年1月26日(水)、グランヴェール岐山において平成22年度第2回日本赤十字社岐阜県支部評議員会を開催しました。

近田和彦副支部長の挨拶に続き、議案として上程された平成22年度補正予算案及び平成23年度事業計画案、予算案、日本赤十字社岐阜県支部支部長の選出について岐阜県支部、高山・岐阜赤十字病院、血液センターの各事務局から説明があり、審議の結果、いずれの議案も原案どおり承認されました。



挨拶をする近田副支部長

赤十字奉仕団リーダーシップ研修会



活発に意見交換する参加者

今年も2月16日(水)～17日(木)の2日間、新たに赤十字奉仕団のリーダー的立場となる団員の養成を目的として、地域赤十字奉仕団リーダーシップ研修会を開催しました。

研修会には県内各奉仕団から38名の参加をいただき、支部指導講師の田中公子氏(岐阜市赤十字奉仕団委員長)による講話をはじめ、防災ボランティアのためのこころのケア、グループワーク「リーダーとしての役割」を研修し、赤十字奉仕団のリーダーとしての心構えや必要な知識を学んでいただきました。

また岐阜県広域防災センターでは、防災講話のほか地震体験や濃煙迷路体験等を経験してもらい、防災に対する知識を深めていただきました。参加者からは、「日頃できない多くのことを学び、また県内各地域の奉仕団員との交流を深めることができ有意義であった。」などのご意見をいただき、充実した2日間の研修会を終えることができました。

岐阜県赤十字有功会から青少年赤十字加盟校への絵本の贈呈

昨年度に引き続き、今年度も岐阜県赤十字有功会から県内の青少年赤十字加盟校に絵本の贈呈が行われました。

絵本の贈呈は、企業や個人で組織された日本赤十字社の支援団体「岐阜県赤十字有功会」の事業として昨年度から始まったもので、今回2回目です。贈呈された絵本は、日本赤十字社名誉副総裁秋篠宮妃殿下紀子様翻訳されたもので、世界の様々な地域に生きる生きものを描いた「地球の仲間たちシリーズ」の第1巻・第2巻で、県内の青少年赤十字加盟小学校174校に贈呈しました。

1月17日(月)には、安八郡輪之内町の大藪小学校(戸田栄治校長:岐阜県青少年赤十字西濃地区協議会長)において、岐阜県赤十字有功会会員であるコダマ樹脂工業株式会社代表取締役会長、児玉栄一様から、同校の代表児童に絵本の贈呈が行われました。子ども達が代表で受け取り、「今後大切にしてお読みします」と、心強いあいさつをしてくれました。



絵本を受け取る青少年赤十字メンバー

年齢条件などの採血基準が一部変更になりました

少子高齢化による献血者の減少に対し、平成23年4月1日より献血基準の一部見直しが行われました。

1 献血へ協力いただける方の年齢の拡大

- (1) 男性に限り、400mL全血献血の可能な方の年齢下限が「18歳」から「17歳」になりました。
- (2) 男性に限り、血小板成分献血の可能な方の年齢上限が「54歳」から「69歳」*になりました。
* 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限られます。

2 血色素量(ヘモグロビン濃度)の最低値の引上げ

- (1) 男性に限り、200mL全血献血が可能となる血色素量*が「12g/dL」から「12.5g/dL」になりました。
- (2) 男性に限り、400mL全血献血が可能となる血色素量*が「12.5g/dL」から「13g/dL」になりました。
* 血液検査(ヘモグロビン測定)の方法を「血色素量」に統一しました。

皆さまのご理解とご協力をお願いします。

詳しくは日本赤十字社のホームページをご覧ください。

日本赤十字社

検索

毎年5月は赤十字運動月間です

赤十字は、1859年のイタリア統一戦争において、スイス人アンリー・デュナンの「傷ついた兵士はもはや兵士ではない。人間である。人間同士としてその尊い生命は救わなければならない」という考えから生まれました。

このアンリー・デュナンの功績を称え、彼の生誕日である5月8日は世界赤十字デーという記念日となっております。

また、日本赤十字社の前身である博愛社は、西南戦争をきっかけとして、1877年5月1日に設立されました。以後、日本赤十字社では、毎年5月を赤十字運動月間と定めています。

赤十字の事業は単年度限りのものではなく、継続的に行うことが必要な事業であり、国の内外にわたるさまざまな赤十字活動を円滑に推進していくために、赤十字を理解していただいた上で、一人でも多くの方に社員に加入いただけるよう、5月の赤十字運動月間を中心に、赤十字社員増強運動を実施しています。

この赤十字社員増強運動の一環として、5月には様々な方法で赤十字のPR活動が行われます。岐阜県支部においても、広報誌の発行や、テレビCM等を通じ、多くの方に赤十字活動への理解をいただけるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成23年度赤十字啓発ポスター



平成23年度赤十字講習会のお知らせ

講習名	日時	会場
救急法基礎講習	6月12日(日)・7月16日(土)	岐阜県支部
救急法救急員養成講習(3日間)	7月17日(日)・30日(土)・31日(日)	岐阜県支部
水上安全法救助員養成講習 I	6月19日(日)・26日(日)・7月3日(日)	各務原市民プール
幼児安全法支援員養成講習	5月19日(木)・20日(金)・26日(木) 6月6日(月)・7日(火)・13日(月)	高山赤十字病院 岐阜赤十字病院
資格継続研修(救急法)	5月18日(水)	岐阜県支部
子育て支援ボランティア養成講座	6月14日(火)	岐阜赤十字病院
災害時高齢者生活支援講習	5月9日(月)	岐阜赤十字病院
こころとこころの架け橋講習	5月10日(火)	岐阜赤十字病院
癒しのハンドケア	6月16日(木)	岐阜県支部
リラクゼーション	6月17日(金)	岐阜県支部

※詳細及び講習参加申し込み書は、岐阜県支部ホームページ上に掲載されておりますのでご覧ください。

岐阜県支部 お知らせ

4月15日現在で岐阜県支部に寄せられた義援金・救援金は次のとおりです。

スリランカ洪水救援金	81,961円	H23年3月31日 受付終了
ブラジル洪水救援金	79,972円	
オーストラリア洪水救援金	90,385円	
ニュージーランド地震救援金	760,908円	
中近東人道危機救援金	63,126円	H23年5月31日まで
東日本大震災義援金	1,033,846,918円	H23年9月30日まで

ありがとうございました



なお、東日本大震災救援金につきましては、下記の口座にて平成23年9月30日(金)まで受け付けております。

口座名義：日本赤十字社 東日本大震災義援金
口座番号：00140-8-507

皆様のあたたかいご協力が心から感謝いたします。